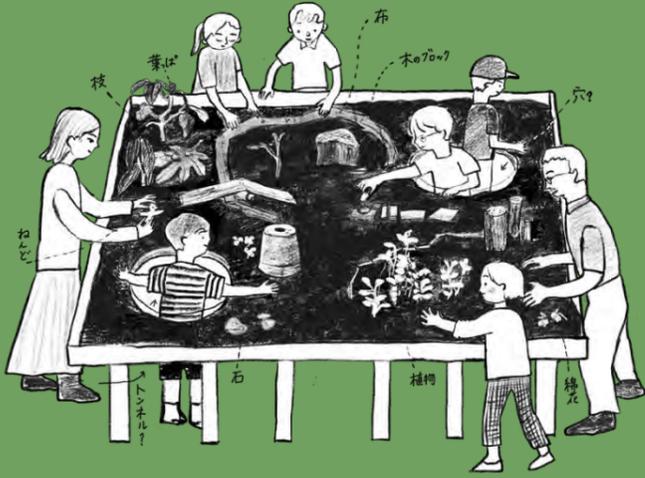


# Natural Playground Inspiration

～ ルースパーツを用いた箱庭遊びブース活動の取り組み ～



鮫島良一 (鶴見大学短期大学部 准教授・国際校庭園庭連合日本支部)  
仙田考 (田園調布学園大学大学院 准教授・国際校庭園庭連合日本支部)  
宮里耕太 (田園調布学園大学大学院 修士2年・国際校庭園庭連合日本支部)  
中林忍 (認定こども園千葉明德短期大学附属幼稚園・国際校庭園庭連合日本支部)

## ISGAブラジル大会での出会い

2023年9月、国際校庭園庭連合日本支部 (ISGA-Japan) の幹事である筆者達4名は、ブラジル (サンパウロ) にて開催されたISGAの国際会議に参加した。大会には、世界各国の子ども環境の専門家が集い活気に満ちていた。様々な催しがある中、会場入口に小さな自然が持ち込まれたようなスペースがあった。そこには150cm四方ほどの台の上に土があり、その上に道や建物らしきものが配置してあり、近くに置かれた自然素材を中心とした材料を使って、その続きを作り足すことができるようになっていた。



試しに少し作ってみていると、スタッフの方がにこやかに話しかけてきたり、通りすがりの方が指差して「グッド!」といってくれたりして嬉しかった。何より、準備されている素材の選択や配置が素敵で、日本の教育現場では普段自由に使わせないであろう石や枝やドライフラワーなどがあることにとても魅力を感じた。

## ブラジルの箱庭ブースの特徴

- ・大きさ：約150cm×150cm 高さ約60cm
- ・設置場所：室内
- ・素材：土、建物の模型、砂、枝、植物、花、藁、木の実、紐、コルク、スティックetc
- ・目的：自然環境づくりのデモンストレーション
- ・活動：箱庭の中心に建物や道があり、自然物を用いてその周辺に遊びの要素を作っていく
- ・対象：大会参加者 (主に大人)

## こども環境学会20周年記念全国大会 (東京) での箱庭ワークショップ

鮫島がこども環境学会20周年記念全国大会 (東京) の実行委員のお役を受け、会場の建築会館 (田町) の中庭にてワークショップを担当することとなった (2024年6月1-2日)。様々打ち合わせ重ねる中で、オープンで大人も子どもも誰でもいつでも参加できるものにしたいと考え、ブラジル大会の事例を元に実践のための検討に入った。

ブラジルのものは四方から中央に手が届く大きさであったが、多くの親や子が同時に参加できるようにするために、サイズを大きくしたいと考えた。会場の中庭の広さに対しても、ある程度の大きさがある方がバランス良くインパクトもあるだろう。しかし一方で大きくなりすぎると中央に手が届かなくなり周辺しかいじれなくなるので、土台にいくつか円形の穴を開けてくれるようにした。



土台の下をトンネルのようにくくるとすると、どれぐらいの高さが必要か、低すぎると膝をつくことになり汚れるのを嫌うだろうし、高すぎると小さな子の手が届かなくなる。今回は、視覚的・操作的に素材を扱うように土台を高めを設定し、小さい子には必要に応じて踏み台を出すことにした。

## ルースパーツとしての自然素材

素材集めに関しては、木の枝一つにしても長さや太さによって扱い方や遊び方が変わることが予想されるので、違いを楽しめるように色々準備し、魅力的に見えるようにサイズに応じた木箱も作った。素材との組み合わせによって扱いや創作の可能性が広がるので、石や砂や植物や木の実や藁や綿など、様々な素材を準備した。参加者が自然の素材を用いることでインスピレーションを発揮し、土の上で自由に遊んで欲しいという思いから、このワークショップを Natural Playground Inspiration (ナチュラルプレイグランド インスピレーション) と名付けた。



## 20周年記念大会での箱庭遊びブースの特徴

- ・大きさ：約270cm×270cm 高さ約75cm
- ・設置場所：中庭 (屋根付き)
- ・素材：土、人形の焼き物、木のブロック、砂、枝、植物、花、藁、木の実、紐、コルク、スティックetc
- ・目的：自然物を用いたワークショップ
- ・活動：さまざまな自然物をルースパーツとしてで遊んだり、作ったりする。箱庭に飽きたら、ワークスペースで遊ぶこともできる
- ・対象：幼児から大人まで誰でも参加可能

会期期間の2日間、箱庭ブースは人が途切れることがなく盛況であった。この後、この取り組みを見ていた川崎市役所の方より依頼を受け、ISGA日本支部として「川崎市市制100周年記念事業・全国都市緑化かわさきフェア」の等々力緑地会場の体験・体感型アクティブガーデンに箱庭ブースを設置することとなった。

## 全国都市緑化かわさきフェアでの箱庭ブース

かわさきフェアでの箱庭ブースは、2024年秋・2025年春の開催期間各3～4週間屋外に設置し、コンセプトとして廃品の木製パレットを活用する。そこで十字に通路を作るように四隅に木製パレットを積み上げ、その上に板を敷き詰めることで強度を確保した。大勢の親子の参加が予想されることから、丸く開けていた穴を今回は中央に大きく四角くすることで、複数が同時に入れるようにした。雨対策も必要となり、排水のために板に小穴をあけたり、目の細かい布を敷き詰めるなど工夫を行なった。素材も期間中ずっと出ていることになるので、案内のイラストを表示した掲示板を素材コーナーに設け、大人も子どもも外国の方でもわかるようにした。また維持管理のため、週末には我々や保育や環境を学んでいる学生達がスタッフとして参加し、自然素材を使って一緒に遊んだり、環境を整えたりすることとした。



## 秋開催の箱庭ブースと森のワークショップ

かわさきフェア秋開催は2024年10月19日から11月17日の期間、川崎市内3会場で開催され、等々力緑地会場のアクティブガーデン（テーマ：体験・体感型ガーデン）の中に箱庭ブースが設置された（箱庭は「触る」感覚）。期間内の週末・祝



日はコアスタッフとサポートスタッフ（学生等）が常駐し、箱庭と森のWSを実施した。平日はスタッフはいないものの、子どもたちが自由に箱庭と素材で遊べるようにした。子どもたちは棚にある様々なルースパーツ（自然素材）を思い思いに選び、箱庭で素材を置きイメージ

を膨らませながら、土に触ったり、素材を並べたり組み合わせたり、お山を作ったりして、箱庭の周囲と中央に開けられた四角の穴の両側から自然遊び・庭づくりを楽しむ様子が展開された。

森のWSでは、等々力緑地内の森で活動を行った。①葉っぱのメダル②めだまっち③森のお弁当箱④葉っぱのくむり等を行い、自然物を素材にした遊びを展開。子どもたちは葉や枝、木の実を集め、森だからできる活動や作品づくりに夢中になっていた。目の前にある自然の魅力に気づき、手を動かしながら季節や森の豊かさを感じる時間となった。



## 春開催の箱庭ブースと自然物ワークショップ

かわさきフェア春開催は2025年3月22日から4月13日の期間、秋開催と同様に等々力緑地会場で開催された。秋から春にかけての開催ということもあり、途中で様々な微修正が加えられた。箱庭の上板を1枚取り去り小さな子どもたちが遊びやすくした



り、箱庭下の抜け穴に人工芝を敷き、汚れずに移動しやすくした。会場から毎週末届く花苗のポットにハーブ等野菜ポットも加わり彩が増えた。また秋から春にかけて行っていたことで認知されたのか、リピーターの子どもたちも多く、毎回盛況であった。

秋開催では森のWSを行ったが、春開催では箱庭の周囲で自然WSを実施した。①どろ絵の具（等々力緑地内の数カ所から採取した土を使って絵を描く）②さくらアート（桜の花びらとどろ絵の具で桜を描く）③流木アート（箱庭でも使用している流木を素材にしたアート）などを実施。箱庭のすぐ隣で行われたことで、子どもたちは箱庭と自然WSを自由に行き来しながら、それぞれの活動に没頭していました。その結果、箱庭ブースがより活気づき、自然とのつながりを深める場としての魅力がさらに広がった。



## 参加者の声

親が声をかけても「もう少し」と2時間遊ぶ子どもたちも多くいた。親自身も夢中になったり、保育や環境を学ぶ学生スタッフも子どもや自然と遊ぶ様子もあった。



## かわさき緑化フェアの箱庭遊びブースの特徴

- ・大きさ：約369cm×360cm 高さ約60cm
- ・設置場所：屋外の公園
- ・素材：土、焼き物の人形、砂、枝、植物、花、藁、木の実、紐、コルク、スティックet
- ・目的：たくさんの親子が同時に体験できる屋外ワークショップ
- ・活動：土いじりをベースとした箱庭での自然物遊びと、近くの森に出かけてのワークショップを行う。
- ・対象：乳児を含む親子での参加を促す

## まとめ 箱庭遊びブースの可能性

都市に生活する子どもたちにとって、身近な自然物にかかわることができる場所や機会が少なくなっていることが言われて久しい。



今回、箱庭という、立ったままで、様々な素材を活用しながら、子どもたちが自然遊び・庭づくりを行えるツールを展開することで、より気軽に、より長く、個々に集中したり、家族やスタッフとお話して協力しながら、創造遊びを楽しむすがたが確認された。土に触れる、自然物で遊ぶことの豊かさが、本活動により再認識されたと考える。